

学習院大学 身体表象文化学専攻主催／文学会共催

アンヌ＝ガエール・サリオ講演会

ジャック・リヴェットの映画における 身体の演劇性

Le cinéma de Jacques Rivette et la théâtralité des corps

アンヌ＝ガエール・サリオ (Anne-Gaëlle Saliot)

デューク大学ロマンス諸言語研究学科准教授。オックスフォード大学博士。

美学と文学の境界領域を研究。19世紀シュールレアリストの作品におけるテキストとイメージに焦点を当てた研究に始まり、近年ではイメージにおけるベンヤミンやブランショ、ドゥルーズやランシエールなどの哲学的的方法論に関心を持ち、フランスのヌーヴェルヴァーグ映画や映画理論を研究している。現在の関心はダンスと文学の関係性にもあり、フランスのモダンダンス、コンテンポラリーダンスにおける日本文化の受容に関する研究もある。著書に *The Drowned Muse: Casting The Unknown Woman of the Seine Across The Tides of Modernity* (Oxford: Oxford University Press, 2015) がある。

日時: 2018年12月13日(木) 午後6時30～

会場: 西 5-301

料金: 無料

言語: フランス語(通訳付き)